

2023年8月16日

株式会社パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス

## 2023年6月期 第4四半期決算説明会 質疑応答要旨

決算説明会における質疑応答（要旨）を記載しております。

ご理解いただきやすいように内容を一部加筆及び修正しております。

質問 1. 今期の前提、国内事業の粗利の改善幅、既存店の伸び、免税の見通しが抑え目に見える。前期ほどの改善を見込んでいないがなにかリスクなどを考えているのか。

A：リスクがあるわけではない。まずは前期の利益を達成することが前提で、その先に上積みをしていくということ。今もコストが上がり続けていて売価にすべて出すことができない状況で、23年6月期はDS事業が初めて営業利益500億円超え、GMS事業も営業利益281億円と数年前と比べると伸長している。

質問 2. 25年6月期の営業利益について。国内は現状の実績から到達できると思うが、海外について、特に北米は25年6月期7%の計画がある中、今期を先行投資することで25/6期一気に伸ばしているのか？

A：国内の成長を先にやっていく。達成のためのコンビネーションをどうするのかというのは会社に与えられた役割と考えている。当初想定したコンビネーションから変わる前提で話している。

質問 3. 25年6月期の営業利益1,200億は射程圏内ということだが、30年6月期2,000億に向けてはどうか？

A：2,000億に対してはまだまだ色々やる必要があるが、一方でこの数年でまだやる余地があるというのが分かってきた。

国内でも出店を増やしたのも採算が取れるやり方が見えてきたから。また、販管費を20%以内にしないでほしいという考え方から変わってきていて、例えばPB/OEMでテレビCMを打ってみることでシンプルに消費行動の変化につながってことも分かってきた。

海外も時間がかかるかもしれないが、日本というコンテンツに自信があり2030年までにつなげていくというのが今の考え方。

質問 4. アジアと北米の投資と刈り取りについて考え方を教えてください

2023年8月16日

株式会社パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス

A：北米は試行錯誤しないといけないところもあるが、好転していけばベースとなる売上が大きい。一定の時間をかける中で、店が少しずつしか増えなくても利益が上げられれば相当に収益貢献していくと考えている。

アジアは少しエリアごとにメリハリをつけていく。今回2年くらいかけてというのと、1年でつじつまを合わせようとするとう無理が出るので、投資はポートフォリオ全体の中で実現できるのであれば、北米においてもアジアにおいても投資は容認したいと考えている。

質問5. D S 事業の24年6月期の予算をみると免税依存に見えるが既存店はどうか？

A：既存店売上は免税売上の伸びが大きいですが、免税店舗以外についても前年を超える計画となっている。免税の急回復、都市店舗で免税売上800億円を狙うと店内の売上構成比も変わり、今まであった免税以外の売上が減ることや、今後の新規出店による既存店へのカニバリ影響があることも認識した上での予算となっている。

質問6. 人事制度改定によるモチベーションの変化など定性面での影響はあるか。

A：全国に店舗展開しているので、全国転勤できる方、各エリアで活躍する方、さらには結婚や出産後も女性の方がそれぞれの地域で活躍できる状況を作るための制度改定でもある。選択肢が増え、従業員が自分の選択した道で活躍ができるということから、モチベーションが上がっていると考えている。

質問7. 中期経営計画では金融事業が25年6月期で営業利益60億円となっているが変わりは無いか。

A：金融事業については当初計画よりもアプリリリースが遅れていることなどから、一定後ろ倒しになると考えている。

以上